

『日本歯科評論 (THE NIPPON Dental Review)』 2005年6月号 (Vol. 65(6)/通刊第752号) 別刷

# 日本歯科評論 6

---

THE NIPPON  
Dental Review

# 福岡県歯科医師会が実施した 「歯科保健に関する住民意識調査」の結果について ～住民が望む歯科健診とは何か？～

梶谷 彰

臼杵辰雄

木下俊則

筒井修一

今里憲弘

須ノ内茂子

赤間 功

木尾泰久

筒井昭仁\*

今泉栄一

香江則明

鎮守信弘

鶴田哲昭

福岡県歯科医師会地域保健部（＊福岡歯科大学口腔保健学講座）  
〒810-0041 福岡市中央区大名1-12-43

## はじめに

日本全国にある歯科医院の数はコンビニエンス・ストアのほぼ2倍である。しかし、その歯科医院はコンビニエンス・ストアほどに地域住民に受け入れられているであろうか？

日本語の「かかりつけ医」に近い英語「Primary care Doctor」<sup>1~2)</sup>では、その条件のひとつに「近接性」をあげ、「近接性とは、住民が地理的、時間的、経済的、精神的に受け入れやすい状態」と定義している。

「かかりつけ医」を目指す日本の歯科医院は、はたしてそこでいう“近接性”的要件を満たしているであろうか？ 数の上では明らかにコンビニエンス・ストアより歯科医院が多く、地理的な近接性においては勝っているようである。しかし他の要件、すなわち時間的、経済的、精神的という点では、どうなのであろうか。

厚生労働省<sup>3~4)</sup>が「かかりつけ歯科医機能」の充

実を打ち出し、医療保険で「かかりつけ歯科医初診料」を整備し、さらに節目健診においても補助金を出すといったように、2020実現に向けての制度が充実し、歯科の定期的受診<sup>5~8)</sup>がすすめられている。しかし残念ながら、それに応える国民は少ないのが現実である。

定期健診を受ける意志を尋ねたある調査によると、対象者の半数が意識の上では定期健診を好意的に受け入れていることがわかった。しかし、実際に

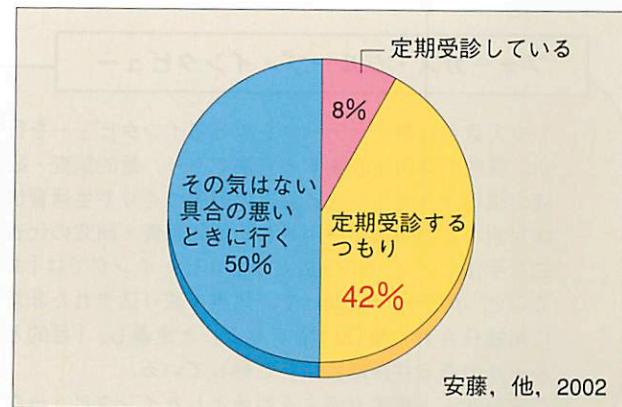


図1 定期健診を受ける意志

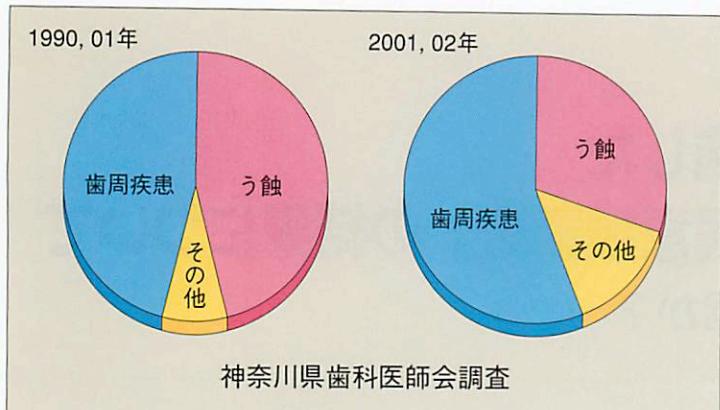


図2 歯の喪失原因

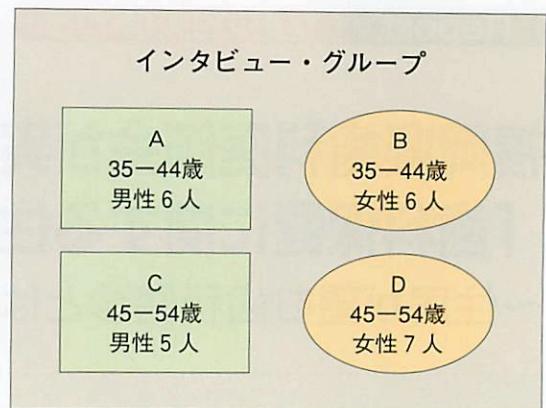


図3 インタビュー・グループ

受診している者はわずか8%であり、42%の潜在的希望者を取りこぼすという大変残念な結果となっている(図1)<sup>6)</sup>.

受け皿としての制度や数は整備されたにも拘わらず、「受けたい」が実際には「受けていない」となるギャップは、いったい何なのか? われわれに何が足りないのか? 多くの研究が行われ、多くの可能性が論じられてきたが、未だその答えは得られていない。

福岡県歯科医師会では、その答えはわれわれ歯科保健・医療の専門家側ではなく、地域住民が持っているのではないかと考え、住民に直接聞いてみようと、歯科保健に関する住民意識調査<sup>9)</sup>を実施した。

調査方法は、質的調査・研究<sup>10~13)</sup>に多用され有用性が認められている、フォーカス・グループ・イン

タビュー法<sup>14~15)</sup>を選んだ。

以下に、そこで得られた結果を、若干の考察とともに報告する。この報告が、読者の皆様に、歯科医院での健診の充実に、また「かかりつけ歯科医」のあり方を考えるきっかけやヒントとなってもらえば幸いである。

## I 調査の方法と調査内容

歯科保健に関する価値観や保健行動は地域、年齢層、性による差異があることが知られているが、今回の調査においては、パイロット・スタディ的な意味もあり、ある程度、対象を絞り込んで行った。

地域の選定にあたっては、福岡県内も都市部と郡部では歯科事情に較差があるため、平均的な歯科レ

### フォーカス・グループ・インタビュー

少人数を対象に、テーマを絞ってインタビューを行い、質的な情報を収集する方法であり、量的調査・研究の限界がささやかれる最近の健康づくりや生活習慣病対策などの領域で多用される質的調査・研究の代表的な手法である。NPO法人ウェルビーイングでは「あるひとつのテーマに向けて、焦点を絞り込まれた非常に組織化された集団討議である」と定義し、「目的とルールのある井戸端会議」と称している。

アンケート調査や個人を対象としたインタビューな

どと比較して、生活者の生の声を直接聞くことができ、お互いの発言そのものが刺激となってグループダイナミックスが生じ、「深みのある情報」や「潜在的な情報」を得ることができる。インタビュー後に、得られた発言に加えて、相づちやうなずきなどの非言語的な情報等も含めて文字化し、それらを系統的に整理することで、問題の本質、すなわち問題の種類やそれぞれの大きさ、広がり、重要性などを把握することができる。



図4 自分の口腔に対する意識1



図5 自分の口腔に対する意識2

ベルということで、福岡市に隣接する前原市および大野城市の2つの地域を選んだ。

対象者については、インタビューの内容を歯の喪失原因（図2）の第1位である歯周疾患に絞ったため、歯周病世代とその予備軍である35～54歳の男女とした。

インタビューは、2004年6～7月の間に、福岡県歯科医師会の地域保健部員とその協力者が行った。各部員は、司会者、サブ司会者、記録者などの役割分担をし、事前に2日間のフォーカス・グループ・インタビューの研修<sup>16)</sup>を受け、さらに模擬インタビューを重ねて準備した。

インタビューは、35～44歳の男女、および45～54歳の男女、各1グループの計4グループに分けて行った（図3）。フォーカス・グループ・インタビューにおいては質的な情報を得ることが目的なので、同じ属性のグループは各々1つとした。また、1グループの人数は、参加者全員が発言し、かつ相互作用が期待できるように5～7人とした。

インタビューの参加者の選定は両市役所の保健師に依頼し、「このテーマについて積極的に発言いただける人」を条件に選んでもらった。結果的に市役所関係者やボランティア・グループの方とが中心となつたが、参加者の歯科についての意識は様々であった。

参加者には事前にインタビューのテーマは知らず、単に「歯の話を聞かせてほしい」とだけ伝えておいた。なお、口腔内検査やアンケート等の調査は行わなかった。

インタビューテーマは「あなたにとってのお口の健康診断とは？」とし、次の3項目について司会者の進行の下に、1時間半から2時間にわたって聞いた。

- ①歯周病の知識・イメージ
- ②歯科健診や歯科医院のイメージ・歯科医院に期待すること
- ③歯科健診を受けるきっかけ・歯科健診に対する要望

インタビューの記録は、記録者2名による筆記にビデオレコーダーとICレコーダーを併用し、これらを基に記述録を作成した。

結果分析はKJ法により行った。分析の手順については、福岡県歯科医師会発行の本調査報告書に詳細に記載しているので、参照されたい。

## II 調査結果について

### 1. 自分の口腔に対する意識

自らの口腔に対する意識では、『健康には食べ物が大事』（『』はインタビューでの住民の言葉）『入



図6 健診のイメージ1



図7 健診のイメージ2



図8 健診の現状

れ歯はいれたたくないし、使いたくない』ので歯を大事にしたいと思う人（図4）がいる一方で、『身体の健診には行くが、歯は重要視していないので行かない』など、自分の歯をあまり大事に思わない人もいた。

また、『根拠はないが、状態が悪いと思う』『いつも爆弾を抱えているような感じ』といった漠然とした不安や歯周病への恐れがあり、自分の口腔の状態が悪くなつて『将来はあまり歯が残っていないと予測している』など、歯の大切さと共に暗い将来を感じている人もいた（図5）。

## 2. 歯科治療や健診に対するイメージ

歯科治療については、子どもの頃の歯科体験により『音を聞くだけでも怖く、歯科医院に行くのに一大決心がいる』といった恐怖心が特に50代に強いが、逆に30代では『子どもの頃の痛かった記憶はあるが、



図9 健診を受ける条件

今は無い』という意見もあり、治療のイメージは、過去における個人の体験が左右しているようである。

また、『マスクのまま説明されても仮面越しに話している感じ』『怒る歯医者には行きたくない』『自尊心を傷つけられる言い方をされると行きたくなくなる』『口の中を見られるのは恥ずかしい』など、歯科医の側に配慮を求める声があると同時に、『治療にお金がかかる』『予約が煩雑』『長く待たされる』という意見も多かった。

歯科健診については、『健診で悪いところばかり指摘されるので、行きたくない』『あなたは大丈夫ですよといわれる健診なら、受けたい』『健診を行ったのに、全部検査され歯を抜くといわれた』『検査は痛いし、次は何をされるか不安』という意見が多く聞かれた。つまり、歯科健診を受けると病気を見つけられ、すぐ治療される、と捉えられていることがわかる（図6）。



図10 健診に対する要望1



図11 健診に対する要望2

一方、定期健診を行っている人は『床屋さんでひげを剃ってもらうような感覚』で来院し、『歯間ブラシの使い方を教えてもらってよかった』『歯磨き指導を受けてから、歯磨きに気をつけるようになった』『歯をきれいにしてもらい、うれしかった』『歯石をとったらすっきりした』と答えており、ブラッシング指導や保健指導に対する満足感、歯石除去や歯面清掃の爽快さが、定期健診を継続する力になっていることが窺える（図7）。

### 3. 健診の現状と受ける条件

健診を受ける現状とその条件として『歯科医院は治療してもらう所』『痛くなければ行かない』という意見に代表されるように、多くの人々にとって歯科医院での健診は当たり前のものではない。一方、定期健診を行っている人に聞くと、『健診を受診すると、その必要性を感じる』『今の歯科医院は明るく、痛くないイメージ』と思っているから、歯科医院では、健診の意味や良さを正しく伝え、気軽に受診できる雰囲気づくりをする努力が必要であろう（図8）。

次に、健診を受けようと思ったきっかけは、『歯周病になったので、進まないように』『口臭を指摘され、改善したい』『笑ったときに綺麗な歯にしたい』などであった。健診の目的は治療だけでなく審美的な要素も関係しているようである。

また、健診に行きやすい条件として、『歯科以外の専門家や身近な人の勧めがあれば行く』『信頼できる歯科医師がいること』『健診の案内ハガキが来れば』などの意見のほか、『自分の生活と健診先の予約時間とが合わない』『健診時に子どもの面倒をみてくれたら』という声もあった。これは、いざ健診に行こうと思った時に信頼できる人の後押しがあり、さらに歯科医院の受け入れ態勢が整っていれば、行動に移しやすいことを意味している（図9）。

### 4. 歯科健診に対する要望

健診結果の説明については、『歯周病の自己チェックシートがあればいい』『ビジュアルな情報のほうがイメージできるし、わかりやすい』『健診結果の継続的なデータがあると把握しやすい』『歯周病を指摘されたが、自分でどうすればよいか教えてほしい』など、わかりやすい説明や適切な指導を望んでいることがわかった（図10）。

健診内容については、『歯石除去やクリーニングをしてほしい』『口臭の有無や歯並びについて教えてほしい』『どんな歯磨き粉、歯ブラシ、ブラッシングがいいか知りたい』など、むし歯や歯周病のチェックだけでなく、口腔に関する相談・指導、口腔ケアグッズの提供など、健診以外のサービスを望む声があった。

健診費用については、『料金が高いのではないか

心配』『サービスと費用を明示している歯科医院に行きたい』『健診料金がわかると行きやすい』という意見が示すように、料金を明確に提示することが必要であると考えられる。

また、健診の通知方法については、『役所からだと距離感を感じるが、行きつけの歯医者なら自分のことをよく知っているなと思う』という声に代表されるように、かかりつけ歯科医からハガキなどで健診のお知らせをしてほしい、という要望があった(図11)。

### III 要改善点について

#### 1. 住民はどんな健診を望んでいるのか

第1に、歯科医はどうしても健診を「治療するための検査」と捉えがちだが、住民は「健康を確認し維持するための健診」を望んでいる、ということがわかる。もちろん、早期発見・早期治療は必要ではあるが、健診では健康づくりに主眼を置き、今ある機能をいかに保持していくかをねらいに、来院者と共同の意識を持つことが重要だと思われた。

第2に、「わかりやすく、納得のいくような健診結果の説明」をしてほしいと思っている。そのためには、問診票に歯周病の自己チェックシートを入れる、結果をビジュアルな情報で示す、過去の健診データと比較ができるような呈示にする、などの工夫が必要であろう。

第3に、「健診以外のサービスの提供」も、健診に付加価値を与えるものとして重要である。量販店の棚にたくさん並んだ歯口清掃グッズの前で、どれを選べばいいのか困っている様子も窺われ、“あなたに合った”清掃器具の紹介や、その使い方の指導などもサービスに加えるべきだと考えられる。

また、専門家によるブラッシングやPMTC後の爽快感も、来院者に満足感を与えていようである。

第4に、「もっと気軽に受けられるような健診」

を希望している。歯科医院は、健診もサービスのひとつであるという意識を持ち、住民が健診を受けやすいように医院環境を整える必要がある。

「次に何をされるのだろうか」「いくらかかるのだろうか」といった不安感を解消するためには、サービス内容や健診料の明示が必要であろう。

また、来院者のライフスタイルに合わせて健診時間を融通する、乳幼児の面倒を見る、衝立でプライバシーを守る、などの配慮をしたいものである。すなわち、地理的、時間的、経済的、精神的な近接性の要件を満たす努力が必要だと思われる。

#### 2. 健診を継続してもらう

厚生労働省は「かかりつけ歯科医機能」の定義の一一番目に「定期的な歯科健診」をあげており、また健康日本21の中でも「かかりつけ歯科医による定期的な歯科健診・保健指導」を推奨している。

健診で来院してもらっても、それ1回で終わりでは意味がなく、8020を達成するためには定期的に継続して来院してもらう必要がある。

そして、住民に健診を継続してもらうためには、住民ときちんと向き合い、来院者が納得し、満足できるような健診を行い、さらには、歯を良好に保ち長持ちさせるためのサービスを提供することが求められている。

定期健診の潜在需要<sup>17~19)</sup>は大きいものがある。それに対する歯科医院は、住民のニーズを的確に捉え、住民の期待に着実に応えなければならない。

### おわりに

今回の調査では、住民に直接インタビューを行い、生の声を聞いた。われわれは、インタビューのたびに「え、そうだったの」と意外な発言に驚き、「なるほどね」と納得し、「わかってもらっているのだな」と喜び、同時に「やはり、そうなのか」と残念

に思つたりもした。

それでも、われわれが想像していた以上に、住民は「かかりつけの歯科医」を信頼し期待を寄せており、健康管理はかかりつけ歯科医にやってもらいたいと思っていることがわかった。

しかし、実際に歯科医院で行われている健診と住民が「こうあって欲しい」と望んでいる健診との間にギャップがあるために、住民の期待が必ずしも定期健診と結びついているわけではない様子が窺えた。

このギャップを埋めるための課題は多様であり、中には解決が難しそうなものもあった。しかし、課題の種類や大きさがわかり、歯科健診・保健指導の方向性が見えてきたことは大きな収穫であった。

報告書をまとめ終えた時、部員みんなから「やつてよかった」という声が溢れた。われわれ歯科医にこれから求められているのは、住民の声を謙虚に受け止め、本当の意味での「かかりつけ歯科医」になることではないだろうか。

今回の調査に採用したフォーカス・グループ・インタビューは、新たに開発した商品が市場にどう受け入れられるかなどをチェックするマーケティングの分野でも盛んに利用されている手法であり、歯科医師会が今回開発した「健診が地域の人たちにどう受け入れられるか」などの手法は、この応用法に近いものであるのかもしれない。さらに今回の調査では「……などの工夫をすればよいのではないか」というような、専門家だけの話し合いではとても得られないであろう助言が出るなど、単なる情報収集以上の効果もあり、準備や分析にかけた時間やマンパワーに見合う成果を得ることができ、有益であった。

福岡県歯科医師会では、この調査結果と提言を受けて、職域での歯科保健をテーマにしたインタビューの実施、インタビュー結果を基にした量的調査(ア

ンケート)の実施、地域住民が参加した歯科保健に関するワーキング・グループの立ち上げ、歯周病予防のための健診マニュアルの作成および会員への普及など、成人歯科保健事業の新たな取り組みを行いたいと考えている。

稿を結ぶにあたり、今回の調査において指導・協力をいただいたNPO法人ウェルビーイングの皆様に感謝の意を表したい。

#### 参考文献

- 1) 高久史磨：かかりつけ医時代の新しい行動規範。総合臨床, 48(9) : 2057-2058, 1999.
- 2) 石川達也, 高江洲義矩, 中村讓治, 深井穰博：かかりつけ歯科医のためのコミュニケーション技法 地域の中の歯科医師の役割と機能。10-11, 医歯薬出版, 東京, 2000.
- 3) 厚生省健康政策局長：歯科保健医療対策事業の実施について。健政第466号, 2000.
- 4) 歯科保険診療研究会：かかりつけ歯科医初診料。日本歯科評論, 62(9) : 167-174, 2002.
- 5) 日本口腔衛生学会編：歯科衛生の動向2000年版。2-21, 医歯薬出版, 東京, 2000.
- 6) 安藤雄一：歯科医療における経済指標 受療行動について考える、ヘルスサイエンス・ヘルスケア, 1(1) : 17-18, 2002.
- 7) 新庄文明：歯科医療現場と地域保健の試金石。日本歯科医師会雑誌, 57(5) : 58-59, 2004.
- 8) 堀口逸子：健診から捉える健康支援。日本歯科医師会雑誌, 57(6) : 54-55, 2004.
- 9) 福岡県歯科医師会編：歯科保健に関する住民意識調査報告書, 2005.
- 10) 筒井昭仁ほか：質的調査・研究の可能性と意義 II. 口腔保健・ヘルスプロモーション活動における質的調査研究の意義。口腔衛生会誌, 54 : 519-526, 2004.
- 11) 中村讓治：地域保健における質的調査の意義とその実践事例。ヘルスサイエンス・ヘルスケア, 1(1) : 14-16, 2002.
- 12) 佐々木 健：なぜ歯科健診を受ける人が少ないのか。ヘルスサイエンス・ヘルスケア, 1(1) : 23-26, 2002.
- 13) 安藤雄一：質的研究とは？—ヘルスプロモーションにおける質的研究の意義と事例紹介。口腔衛生会誌, 53 : 56, 2003.
- 14) 梅澤伸嘉：実践グループインタビュー入門。5-98, ダイヤモンド社, 東京, 1997.
- 15) 安梅勲江：グループインタビュー法。1-32, 医歯薬出版, 東京, 2003.
- 16) フォーカス・グループ・インタビュー研修会テキスト。NPO法人ウェルビーイング, 2004.
- 17) 柴谷光慶, 内川賀雄, 高橋建作ほか：患者の意識調査 地域歯科医院におけるアンケート。口腔衛生会誌, 40:486-497, 1990.
- 18) 柏木伸一郎：明日からできる診療室での予防歯科 第5章診療室から地域へ。26-58, 医歯薬出版, 東京, 1998.
- 19) 安藤雄一, 中村宗達：地域住民の歯科受療行動とその要因。口腔衛生会誌, 52 : 342-334, 2002.